

2014年(平成26年)11月15日 土曜日

## 東西南北

2014.11.15

中津市の大江医家史料館に

植わっているラッパ状をした  
マンダラゲ(曼荼羅華)の花は白く  
ウセンアサガオ)の花は白く  
美しいが、毒性が強い。江戸  
時代に華岡青洲がこれで麻酔

薬を作り、世界初の全身麻酔手術をしたこと  
で知られる▼大江雲沢(1822~99)が青洲の  
大坂医塾で学んだことから大江家では昔から  
漢方を取り入れた医薬を施していた。この歴  
史的事実を掘り起こしたのが、10年前から毎  
年春と秋に史料館の薬草園を手入れしている  
同市のボランティア団体「マンダラゲの会」  
(川寫真人会長)だ▼先月、20回目の奉  
仕作業に参加させてもらった。恒例の学習  
会ではヴォルフガング・ミヒェル九州大学  
名誉教授が中津藩の5代藩主奥平昌高を  
テーマに講演。それによると、知識欲旺盛な  
昌高は自らオランダ語を話し、日蘭辞書を  
刊行するなど地方にしながら日本の蘭学の  
発展に多大な貢献をした。シーボルトの  
日記にも登場し、鎖国下の日本を代表する  
国際人だったらしい▼長く平和が続いた江  
戸時代にはわが県でも旧藩ごとにその地  
方独自の文化が育った。この中にはきつ  
と現代の地域おこしのヒントがあるはず。  
マンダラゲの会は昔から庶民の憩いと社  
交の場だった葉湯「大江風呂」を再現し  
たり、中津が誇る蘭学医・前野良沢が  
趣味として奨励した尺八の元祖「一節  
截」を復活させるなど、粋でユニークな  
活動をしている▼安倍首相が掲げる地方  
創生予算も、この会のような市民による  
地域文化の発掘活動を支援してほしい  
ものだ。